

GAPJapan2015

JGAPの今とこれから

— デファクトスタンダードを目指して —



登録番号 123456789



登録番号 123456

2015年9月10日
日本GAP協会 理事会

1

日本の標準GAP(デファクトスタンダード)を目指すJGAPのあゆみ JGAP

—GAP乱立への対応時代から、新たなステップへ—

- ✦ 2002-2007年 流通・JA・行政、多様なGAPが日本国内で作られていく
- ✦ 2006年11月 日本GAP協会 設立
 - 設立の目的①：日本の業界標準のGAPを構築すること
 - 設立の目的②：世界に通用する日本の本格的なGAPを創り、普及すること
- ✦ 2007年11月 JGAPの第三者認証制度がスタート
- ✦ 2008年10月 日本GAP協会 基本方針および行動目標 策定
- ✦ 2010年4月 農水省「GAPの共通基盤に関するガイドライン」が発表
- ✦ 2010年6月 JGAP青果物2010を発表。農水省ガイドラインに対応
- ✦ 2010年7月 JGAP認証の消費者向け表示を開始
- ✦ 2011年8月 JGAP基準に放射能対策が追加される
- ✦ 2013年5月 「JGAPと他のGAPとの同等性認証」の制度がスタート
- ✦ 2013年7月 JGAP英語版の発表／JGAP取組宣言制度の開始
- ✦ 2015年1月 一般財団法人日本GAP協会、NPO法人アジアGAP総合研究所の2法人体制に発展

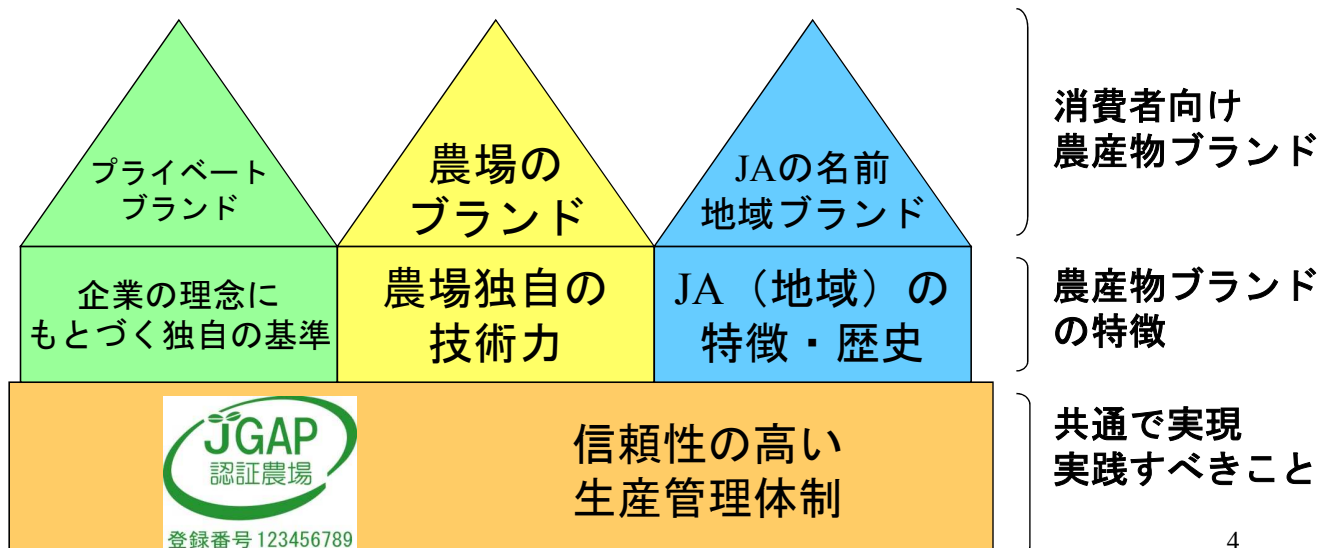


香港(1位)と台湾(3位)は、日本の主要な農林水産物・食品の輸出先

3

JGAPと農産物ブランドの位置付け

- JGAPマークは、農産物ブランドではありません。そのようには設計も普及活動もしていません。
- 農産物ブランドは、事業者の方々が作るものです。
- 皆さんの農産物ブランドで、農場由来の食品事故を出さないために利用される基準・認証制度(産地管理の仕組み)がJGAPです。



4

基準書	基準書ファイル	審査・認証期間	補足情報
青果物 2010		(2010年7月1日より審査・認証開始)	>>補足情報
青果物 2010(英語) JGAP2010 Fruits and Vegetables		(2013年7月20日発表 審査・認証に利用可)	
青果物2010 (中国語簡体字版)		(2014年7月14日発表 審査・認証に利用可)	
青果物2010 (中国語繁体字版[台湾])		(2014年7月14日発表 審査・認証に利用可)	
青果物2010 (ハングル版)		(2015年8月7日発表 審査・認証に利用可)	
穀物 2012		(2012年9月1日より審査・認証開始)	>>補足情報
穀物 第2.1版		(2013年8月31日まで審査・認証継続)	
茶 2012		(2012年3月1日より審査・認証開始)	>>補足情報
茶 2012(英語) JGAP2012 Tea		(2014年10月1日発表 審査・認証に利用可)	

団体事務局用 管理点と適合基準

基準書	基準書ファイル	審査・認証期間	補足情報
団体 2012		(2012年6月1日より審査・認証開始)	>>補足情報
団体 第2.2版		(2013年5月31日まで審査・認証継続)	

総合規則

基準書	基準書ファイル	審査・認証期間	補足情報
総合規則 2014		(2015年4月1日より審査・認証開始)	>>補足情報
総合規則 2013		(2015年3月31日まで審査・認証継続)	>>補足情報

JGAPは全ての基準書がオープンであり、無料で提供されています。

※基準書のみならず詳細な運用の規則や各種の補足説明など、制度に係る基本的な情報は全てHP上に開示されています。

日本国内では、認証制度を前提としたGAPとしてはJGAPがナンバーワンのラインナップです。

海外と比較しても、本格的なGAP認証制度として必要なものは全てそろっています。

英語版・中国語版・ハングル版もあります。

JGAP
英語版

JGAP
Japan Good Agricultural Practice
Control Points and Compliance Criteria
Fruits and Vegetables
2010
Issue date: 26th May 2010
Certification starts: 1st July 2010

No.	Level	Control Points	Compliance Criteria	Yes	No	N/A	comment
A Farm operation and sales management							
1. Farm operation							
1.1 Basic principles							
1.1.1	Major	The producer actively implements JGAP.	The producer can explain the reasons for the implementation of JGAP and the purposes of implementation.				
1.1.2	Minor	The farm is maintained, organized and clean.	(1) The sites and infrastructures are regularly cleaned. (2) There is no waste or litter in the fields and infrastructures.				
1.2 Management of resources							
1.2.1	Major	Responsibilities and authorities are clearly defined.	There is a management program that clearly illustrates the following personnel: (1) Person responsible for worker's safety (Ref. control point 15.1.1) (2) Person responsible for worker's safety (Ref. control point 15.1.1)				
1.2.2	Major	There is a basic information about the sites and the infrastructures.	The sites and infrastructures (packhouse, stores etc.) are identifiable, and there is a table that illustrates the latest information on the following: (1) each plot's address, area, ownership, name or plot number (2) each infrastructure's address and name (3) map of the sites and infrastructures that shows their surroundings				
1.2.3	Minor	The machinery is well maintained.	(1) Fertilizer application equipment, plant protection product application equipment and other machinery/vehicles with engine, are verified at least once a year, so as to prevent accidents and contamination of products and soil by the spillage of oil or solution. (2) There is a record of machinery maintenance. (3) When the producer uses external maintenance service, relevant documents, such as receipts, are kept.				

p. 1

JGAP
中国語版

符合农林水产省「农业生产工程管理(GAP)的共同基础准则」
符合以取得GLOBALG.A.P.认证为目标的JGAP认证生产者准则

JGAP
Japan Good Agricultural Practice
(日本良好农业规范)
农场专用控制点与符合基准

果蔬版
2010

2010年5月26日发行
2010年7月1日实施认证

控制点	符合基准	是	否	不适用	理由
1. 农场经营					
1.1 基本原则					
1.1.1	必须	GAP的导入要有自主性			能够说明导入GAP的理由或目的。
1.1.2	重要	农场要保持整洁和有序的状态			① 农田和农场设施要定期清扫。 ② 农田和农场设施内不能乱丢废弃物和垃圾。
1.2 经营资源的管理					
1.2.1	必须	要有经营组织，并要明确下列负责人。			① 农场负责人 ② 田间管理负责人(参照控制点3.3.1) ③ 施肥负责人(参照控制点5.1.1) ④ 农药使用负责人(参照控制点5.1.1) ⑤ 农药保管负责人(参照控制点4.1.1) ⑥ 劳动安全负责人(参照控制点15.1.1)
1.2.2	必须	要有农田/农场设施的详细资料			可以包含农田/设施(农产品处理区、仓库等)，并具备以下几项最新信息的一览表。 ① 农田地址、面积与耕种形式以及农田名称或编号 ② 设施的地址与名称 ③ 可以了解农田/设施的地图
1.2.3	重要	要合理维护农具			① 施肥机械、农药施用机械以及带有动力装置的农具，每年应进行一次以上，以便于预防农具的漏油和其他液体的泄漏等故障所引发的劳动事故、农产品污染以及土壤污染。 ② 要有农具的维护记录。 ③ 利用外部维修服务时，要保管好维修清单。

p.10

GLOBALG.A.P. 承認
Approved by GLOBALG.A.P.

**GLOBALG.A.P.認証を目指す
JGAP認証生産者のための
ガイドライン**

Guideline for JGAP Certified Producers
aiming at GLOBALG.A.P. Certification

「JGAP青果物2010」対応

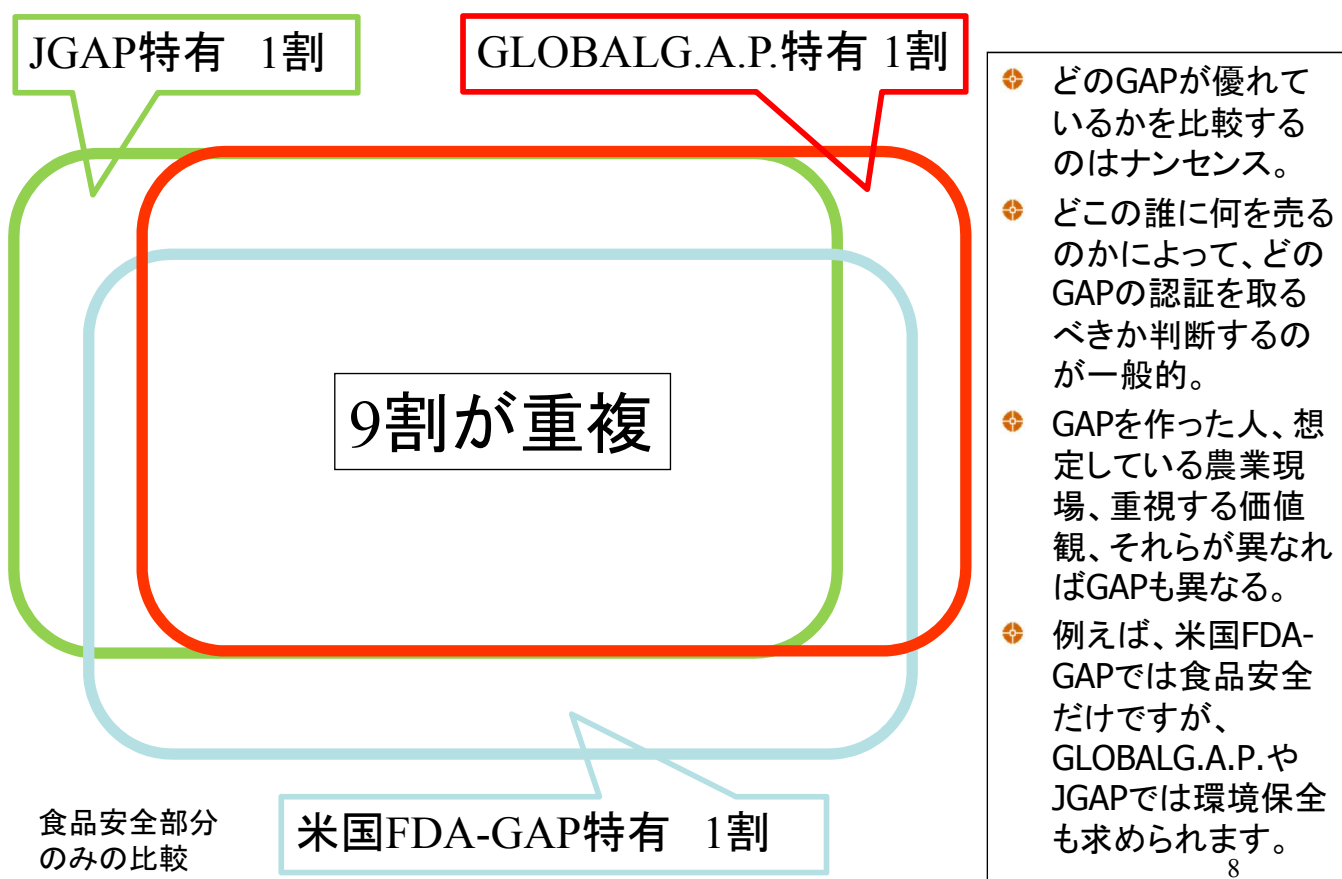
2013年10月20日発行

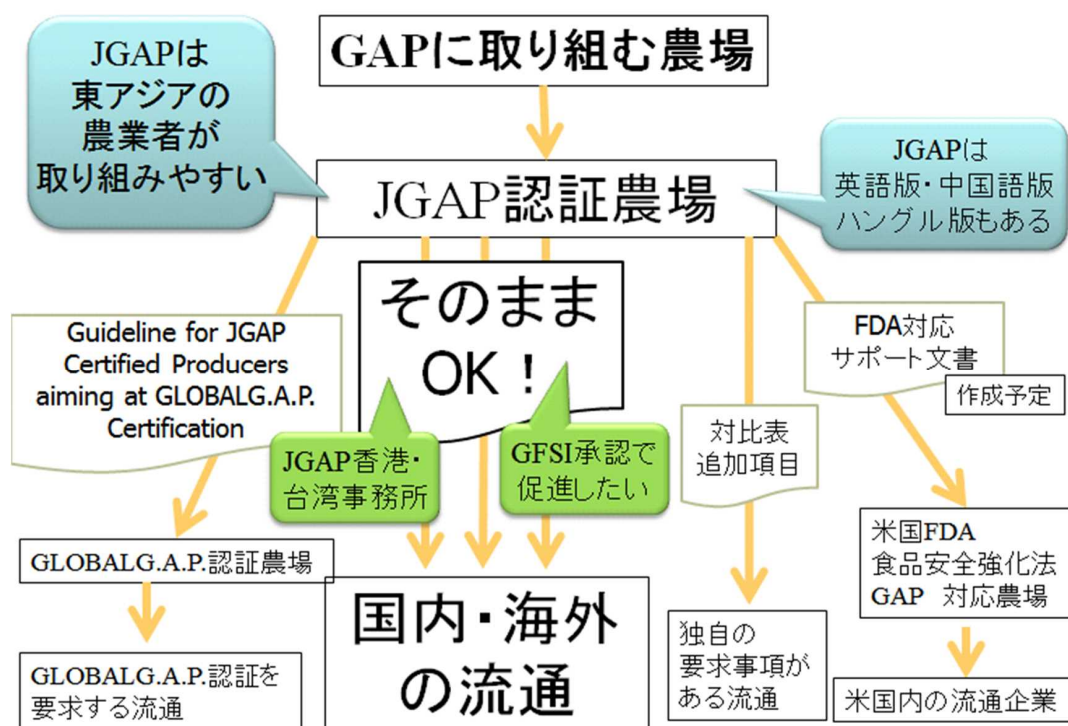
Document Name	Type	Version	Published
GLOBALG.A.P.認証を目指す JGAP認証生産者のための ガイドライン Japanese PDF 889 KB	Guidelines and Supporting Documents		Oct 22, 2013

Showing 1 to 1 of 1 entries

JGAP認証農場は、必要に応じて
GLOBALG.A.P.認証を容易に取ることができます。

JGAPとGLOBALG.A.P.と米国FDA-GAPの違い

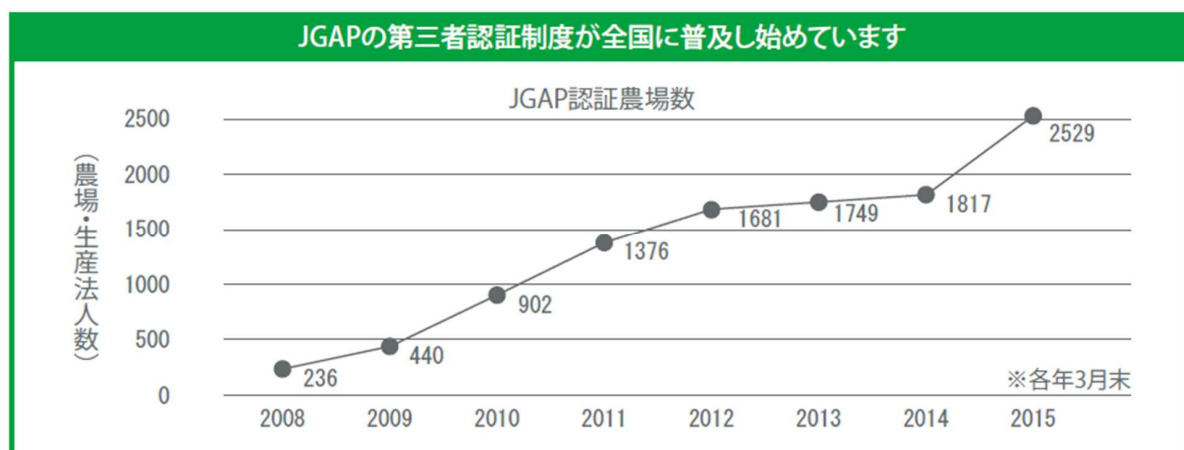




デファクトスタンダードになりつつあるJGAPを入り口にすれば、「JGAP+」で国際化に向けた柔軟で幅広い対応が可能

9

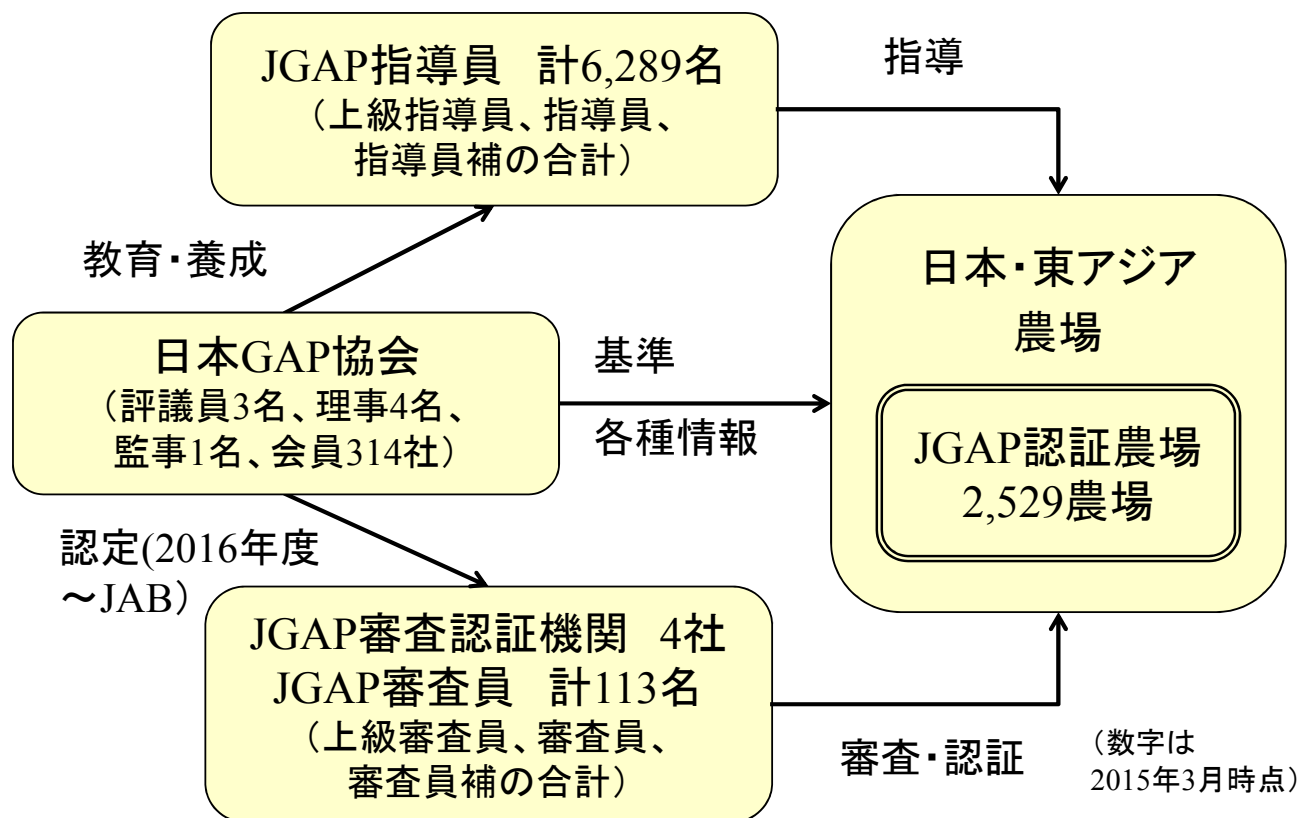
JGAP認証農場の推移



生産現場の取り組み意欲が高い！

★日本国内において第三者認証の仕組みを持つGAPとして最多

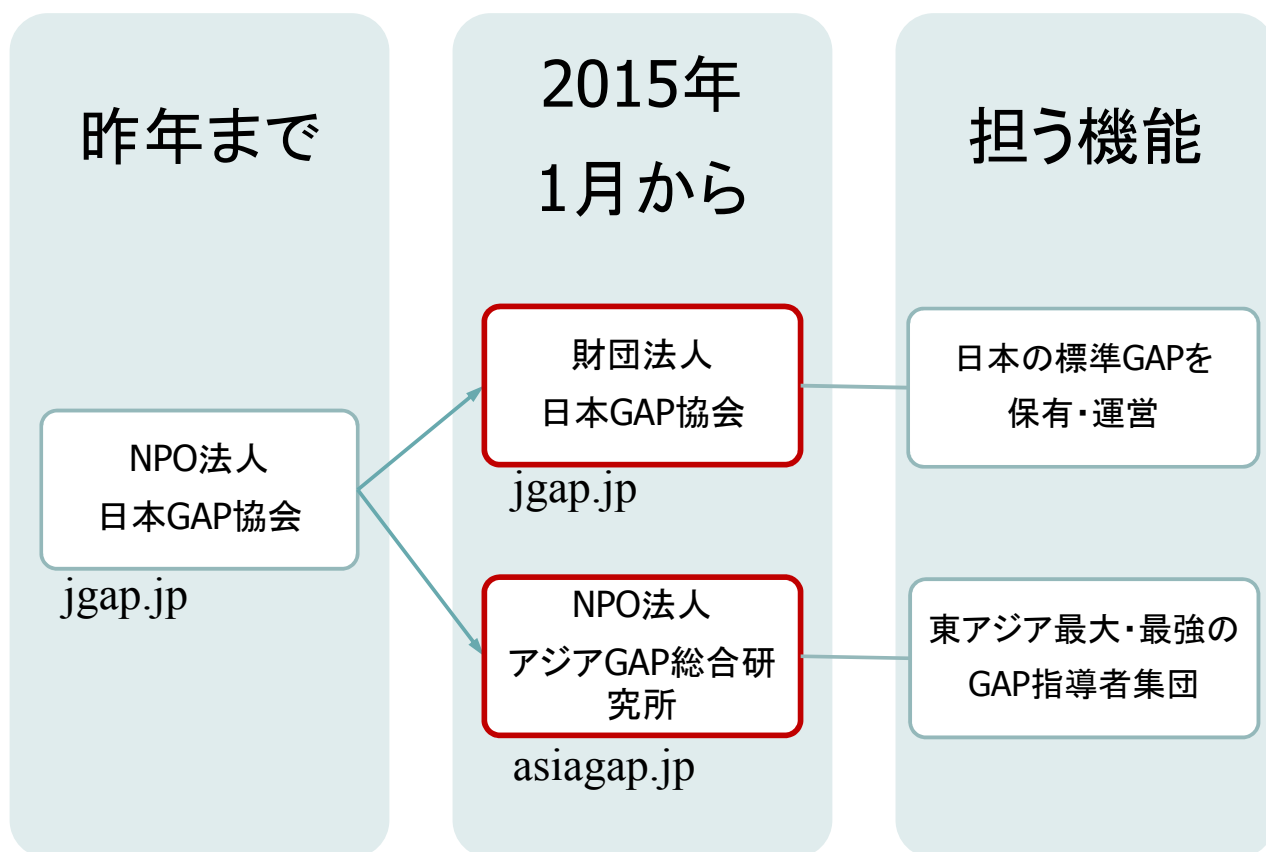
★農業法人白書「取得したい認証」として4年連続で1位
(日本農業法人協会 2010～2013年度のアンケート調査より)



11

JGAP指導員/指導員補の推移

	2008年	2015年
農業生産者	8%	19%
都道府県の普及指導員等	3%	16%
農協の職員	8%	18%
農産物流通・小売・食品メーカー等	10%	10%
農薬・肥料・農業資材・資材メーカー等	59%	20%
その他	12%	16%
合計人数	836名	6,289名



13

✦ 財団法人 日本GAP協会

日本の標準GAP「JGAP」を保有するにふさわしいガバナンスの安定性と財務の継続性を、財団法人とすることにより実現

- 導入することで農場がぐんと良くなる！そんな最高のGAPを日本で作り、世界に発信
- オールジャパンで官民連携のGAP普及を推進

✦ NPO法人 アジアGAP総合研究所

AGRI: Asia Gap Research Institute

シンクタンクとしての立場から、日本、さらには東アジアのGAP指導と農産物のブランド化を幅広く支援

- JGAP、GLOBALG.A.P.、米国FDAGAPの指導と研修の実施
- 流通企業や食品メーカーの原料産地のGAP指導・二者監査の受託
- 日本の農業者とともに、フィールドは東アジアへ

14

JGAP2015 開発方針

- ❖ 適切で効率的な農場管理が実現できるGAP
- ❖ 農場の生産性の向上および管理技術の向上につながるGAP
- ❖ 日本・東アジア・東南アジアで利用できるGAP
- ❖ 植物工場や薬用作物にも対応したGAP
- ❖ GFSI承認を取得できるGAP

技術委員会 本委員会

技術委員長 1名
 部会長 4名
 課題ごとの専門審議会

生産性向上と管理技術の向上 専門審議会
 施肥 専門審議会
 残留農薬 専門審議会
 病原性細菌管理 専門審議会
 環境保全と持続的農業 専門審議会
 労働安全・農機 専門審議会
 海外活用 専門審議会

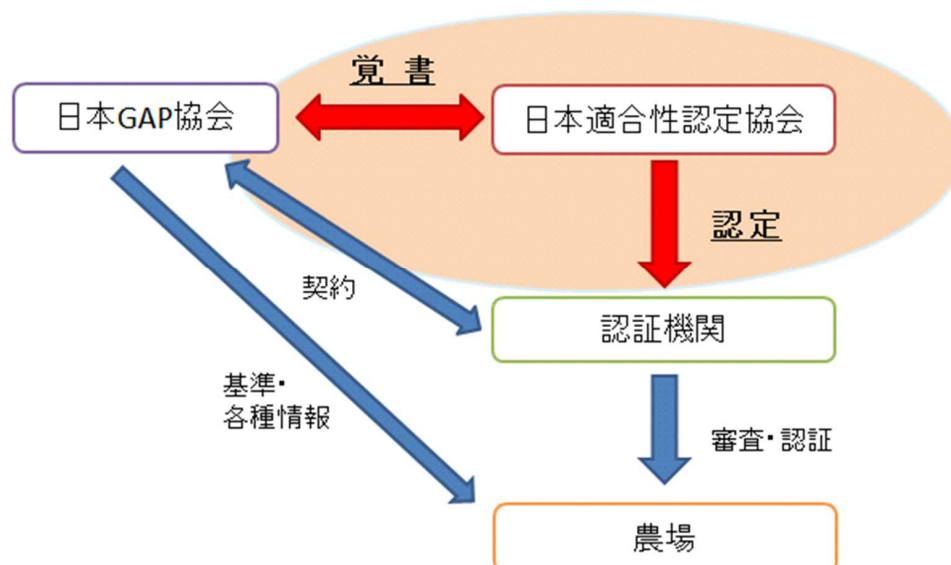
品目部会

- － 青果物部会(部会長1名)
 - ・ 土耕青果物・薬用作物 小部会
 - ・ 水耕青果物(植物工場) 小部会
 - ・ きのこと 小部会
- － 穀物部会(部会長1名)
 - ・ コメ 小部会
 - ・ 麦・大豆・その他穀物 小部会
- － 茶部会(部会長1名)

審査認証部会(部会長1名)

団体認証制度も管掌

15

日本適合性認定協会と覚書を締結**<新たなJGAP認証制度の仕組み>**

認証機関が、公益財団法人日本適合性認定協会の認定を受けることで、JGAP認証のさらなるグローバル化と信頼性の向上が実現
 (2016年4月から、順次移行)

✦ 直接支払制度との関係（※本日のメインテーマ）

- EUにおいては直接支払制度の条件にGAPに類似した18の法律・規則+GAECが位置づけ
- さらに、その直接支払の上乗せとして地域条件を活かした環境支払
- 日本では、GAPの広がりがこの機運を醸成する力を秘めているのではないか

✦ 地理的表示保護制度(GI)との関係

- 「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律」(通称「地理的表示法」)が平成26年6月に成立
- 制度上必須となっている「生産行程管理業務」のベースとしてのGAPの活用

17

✦ 日本再興戦略における方針（平成26年6月24日閣議決定）

国際的に通用する規格の策定と我が国主導の国際規格作りに取り組む。例えば、我が国農産物の生産工程管理については、国内で統一されていないことに加え、国際的な商流では受け入れられない場合がある。国内生産基盤の強化とともに海外バイヤーに訴求力のあるものとするよう、本年度から関係者の協議会を設け、輸出促進に向けたGAPの在り方の見直しを行う。

✦ 食料・農業・農村基本計画における方針（平成27年3月31日閣議決定）

- 農林水産省のガイドラインに則した一定水準以上のGAPの普及、拡大を推進する。
- GLOBALG.A.P.等の認証取得を促進する。また、国際的な取引にも通用する(中略)GAPに関する規格・認証の仕組みの構築を推進する。
- GAPの導入により、栽培管理や営農管理の改善、合理化を進める。

18

種 類	運 営 主 体	説 明
各都道府県のGAP	各都道府県	- 各都道府県が独自に定めたGAP - 一部の都道府県で第三者による認証を実施
JAグループのGAP	JA、経済連、全農	- 各JAが独自に定めて取り組むGAP - 一定の要件を満たすJAに対し、全農が認証システムを提供
GLOBALG.A.P.	ドイツに本部を置く非営利組織・フードプラス	- 欧州の流通小売の大手企業が主導で策定した取引要件としてのGAP - 第三者による認証を実施
JGAP	(一財)日本GAP協会	- 農業者、JA、大手小売業等が参加して開発 - 指導員を育成する仕組みをもつ - 第三者による認証を実施
適正農業規範／ 農産物品質保証システム	日本生活協同組合連合会 (産直事業委員会)	- 生協の「産直」商品を主な対象としたGAPの基準 - 生産者自身による点検と生協の二者点検を実施

出展：農林水産省「農業生産工程管理(GAP)について」

19

GAP戦略協議会の設置

- 日本再興戦略において、「関係者による協議会を設け、輸出促進に向けたGAPの在り方を見直す」こととされている。
- 一方、国内に向けても、生産者へのGAPの普及導入、実需者に向けたGAPの活用等の検討が必要。
- GAPの課題解決に向けた議論を展開する場として「GAP戦略協議会」を設立。

平成27年3月19日 GAP戦略協議会 設立

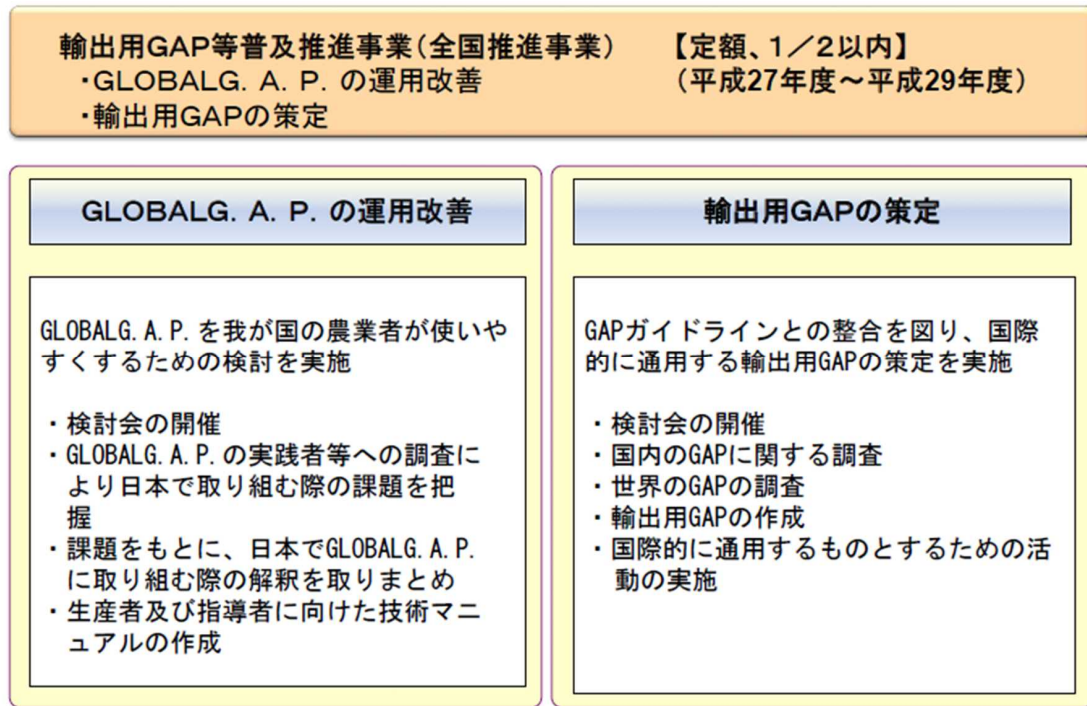
協議会構成員

学識経験者、農業者、農業団体、実需者（流通・小売）
GAP運営・普及団体、認定機関、マスコミ 等

検討事項

- ・ 食品安全・環境保全・労働安全確保等のためのGAPの活用の促進
 - ・ 輸出促進に向けたGAPの推進
 - ・ GAPガイドラインの改訂、普及、浸透
 - ・ 国内の農産物取引におけるGAPの活用
- 等

日本GAP協会・アジアGAP総研も協議会構成員



出展: 農林水産省「農業生産工程管理(GAP)について」

輸出用GAPの策定は日本GAP協会が実施

21

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて①

- ❖ 2012年オリンピック・パラリンピックロンドン大会(以下「ロンドン大会」)では、食材調達の基準として英国のGAP制度である「レッドトラクター」が採用されており、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会(以下「東京大会」)に向けてもGAPの取り扱いが注目されている。

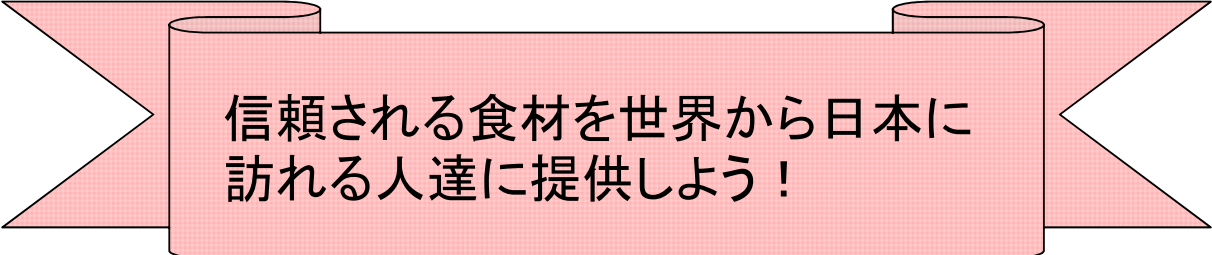
ロンドン大会の事例(農産物)

- ・義務的基準: レッドトラクター認証
- ・意欲的基準: 有機認証、GLOBALG.A.P.認証など

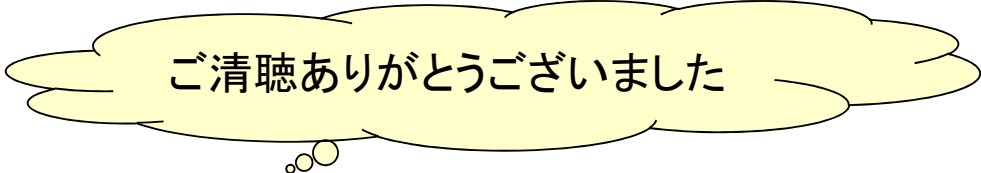
※「レッドトラクター」とは、英国の「Assured Food Standard」が運営する認証制度。英国産農畜産物の生産・流通過程を高い管理基準で認証。

22

- ✦ 農林水産省は、我が国におけるGAPや有機農業の取組実態、ロンドン大会における事例などの調査を実施中。
- ✦ 日本の食材、さらには農業・食品産業の質の高さをアピールするためにも、国産で、安全であるだけでなく、環境や社会的責任も果たしている食材をしっかりと提供することが重要。



信頼される食材を世界から日本に
訪れる人達に提供しよう！



ご清聴ありがとうございました